

各 位

共同コンピュ - タホ - ルディングス株式会社

代表取締役社長

吉村 昭一

( JASDAQ ・ コト 9685 )

問い合わせ先

取締役

小林 勇雄

( TEL : 0776-34-3512 )

平成22年3月期第2四半期累計期間及び通期(連結)業績予想の修正、並びに平成22年3月期第2四半期累計期間(単独)の前期実績との差異に関するお知らせ

平成22年3月期(平成21年4月1日～平成22年3月31日)の業績予想について、平成21年5月15日付当社「平成21年3月期決算短信」にて発表いたしました平成22年3月期第2四半期累計期間(連結)業績予想ならびに通期(連結)業績予想を下記のとおり修正いたします。

また、平成22年3月期第2四半期累計期間(単独)の業績見込みについて、前年同期と比較して差異が生じることとなりましたので併せて下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 平成22年3月期 連結業績予想の修正等

(1) 第2四半期累計期間(平成21年4月1日～平成21年9月30日)

( 単位:百万円 )

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
前回予想( A )	1,700	80	75	50	円 銭 9.78
今回修正( B )	1,485	50	55	30	5.88
増減額( B - A )	215	130	130	80	—
増減率	12.6%	—	—	—	—
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成21年3月期第2四半期)	1,743	66	68	17	3.42

(2) 修正理由

当第2四半期連結累計期間における我が国経済は、景気の底打ち感が見られるものの企業収益の減少は続いており、雇用情勢の悪化や先行きへの不透明感から企業の設備投資や消費も低迷するなど依然厳しい状況が続いております。

そのような状況下で当社グル - プは、受注獲得に向け既存顧客の深耕や新規顧客の開拓に努めてまいりましたが当第2四半期累計会計期間の業績は、企業収益の悪化を背景とした情報化投資の見直しなどによる外部環境の影響が他の業種より多少遅れて影響し、役務提供型事業

の短期間化による契約の見直しに伴う受注減や請負型における大型案件の減少、新規案件の凍結、先送り等が起因して売上高は14億85百万円になる見込みであります。

一方、利益面につきましては、固定費の削減や経営の効率化に努めてまいりましたが、売上高の減少によるSEの稼働率の悪化が売上原価を押し上げる結果となり、営業損益は50百万円の損失、経常損益は55百万円の損失となる見込みであります。

四半期純損益は、上記の理由により前期の賞与引当金の過大計上による戻入23百万円や投資有価証券売却益6百万円などの計上がありました30百万円の損失となる見込みであります。

(3) 通期(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
					円 銭
前回予想(A)	3,550	180	170	110	21.5
今回修正(B)	3,200	40	30	20	3.94
増減額(B-A)	350	140	140	90	—
増減率	9.9%	77.8%	82.4%	81.8%	—
(ご参考)前期実績 (平成21年3月期)	3,474	151	150	48	9.38

(4) 修正理由

景気減速の影響が第3四半期連結会計期間以降も予想され厳しい状況下にあります。景気の悪化に底打ちの兆しが徐々に現れてきており、企業の情報化投資にも改善が見受けられます。然しながら、本格的な需要の回復にはまだ時間を要するものと思われま。

このような状況の中で、当社グループは、受注拡大に向け引き続き既存顧客の深耕や新規顧客の開拓を図り、SEの稼働率の向上に努める所存であり、また、第2四半期累計期間に施策した固定費の削減効果が第3四半期連結会計期間以降見込まれますが、第2四半期累計期間における売上高の減少やSEの稼働率の悪化などの影響があり、その結果、売上高につきましては当初予想より3億50百万円減少となり32億円になる見込みであります。

営業利益及び経常利益につきましても、下期にはSEの稼働率の向上や固定費の削減効果があるものの、全般的な売上高の減額予想により営業利益及び経常利益とも1億40百万円の減少となり営業利益40百万円、経常利益30百万円となる見込みであります。

当期純利益につきましては、上記理由による減少と上期における賞与引当金戻入益や投資有価証券売却益の影響で当初予想より90百万円の減少の20百万円となる見込みであります。

2. 平成22年3月期第2四半期累計期間(単独)業績見込みと前年同期との差異

(1) 第2四半期累計期間(平成21年4月1日～平成21年9月30日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
					円 銭
前期実績(A)	64	0	0	16	3.04
当期見込み(B)	53	5	5	32	6.28
増減額(B-A)	11	5	5	48	—
増減率	17.2%	—	—	—	—

(2) 差異の理由

当社は、平成21年7月1日付けで連結子会社であった(有)ジスネット(100%子会社)を吸収合併いたしました。

それに伴い、「企業結合に係る会計基準」(企業会計審議会 平成15年10月31日)及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号 改正平成18年12月22日)に基づき、共通支配下の取引として会計処理を行っております。その結果、特別利益(抱合せ株式消滅差益)に15百万円が計上されております。

なお、当期実績につきましては、売上高が若干減少し営業損失及び経常損失を計上するものの当期純損益につきましては、上記の抱合せ株式消滅差益や将来減算一時差異の増加に伴う繰延税金資産の計上で法人税等調整額が減額されたことにより当期純利益は32百万円となる見込みであります。

(有)ジスネットは100%子会社であるため当該合併に伴う前期連結業績への影響はありません。

以 上

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、本資料発表時現在の入手可能な情報に基づいた判断及び仮定を前提とした見通しであります。多分に不確定な要素を含んでおり、実際の業績は今後の様々な要因により異なる結果となる可能性があります。